

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業および研究協議の要旨

市町村名 豊中市  
 実践研究校名 豊中市立第九中学校

【公開授業】公開日：平成 26年 2月 4日  
 対象学年：2年生

(教材・教科書名) ONE WORLD2 (単元名) Lesson7	(本時の指導の目標) ・比較級、最上級の活用、文の違いが分かるということの確認。 ・グループで協力し、積極的に話そうとしている。
---	--

(本時の授業において工夫した点)

- ・ICTを活用した授業、パワーポイントを利用して分かりやすい授業を心がけた。
- ・復習、クイズ、コミュニケーション・タイムというように、テンポよく飽きのこない構成にした。
- ・身近なテーマや先生に登場していただいて、生徒の興味関心をひきつけるようにした。
- ・比較級や最上級の様々な文の形態をクイズに出し、理解しているかどうか振り返り、確認を行った。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・同じようなパターンが続いたので、生徒たちの集中力が落ちたところがあった。
- ・グループだけでなく、個別やペアでの学習なども織り交ぜた方がもっと活発になったと思う。
- ・AETと生徒が話す機会をもっと増やせばよかった。

【研究協議】

(テーマ) 個々の生徒が積極的に コミュニケーションを図る授業を目指して	(指導・助言者) ・大阪府教育委員会事務局 市町村教育室小中学校課 教務グループ 指導主事 的場 亮介 ・豊中市教育委員会 教育センター 教育相談チーム 主幹 山本 恵信
--	---

(研究協議会で出された意見)

- ・ICT 機器を積極的に取り入れ、身近な先生の動画を挿入するなど生徒の興味関心をひく教材を用意するなどの工夫が見られた。
- ・たくさん英文を出すと生徒たちが先生や AET の英語を聞かなくなるので、絵や写真などを提示するのみに留めておくとうい。
- ・授業の目標(目当て)、授業の流れ、何をするのか等を適宜示し、それが達成できたかをよく振り返っていた。
- ・課題を自ら考えるためにはどうしたらよいか。それには自分が調べ、自分が知っていることや、自分たちに関わる問題などを発表させると良い。また、班対抗のクイズを作成させるのも効果的である。
- ・生徒が英語を使う時間と先生が英語を使う時間のバランスが大切である。(できるだけ生徒がしゃべらる場面を設定する。)
- ・Can-Do リストの活用、評価については、指導と評価の一体化を見据える必要がある。
- ・授業規律が守られていた。

(まとめ)

1. より分かりやすいICT機器の活用、提示の工夫。
2. 生徒の発話、生徒自身の考えを大事にする授業。
3. 目標達成に向けてのアプローチの仕方。

以上3点を今後研究していく。